

オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第43号

2005年2月9日

<http://pweb.sophia.ac.jp/~s-yuga/asaj2/>

関根政美・新代表理事、抱負を語る

「学会活動は停滞」との風評を最近よく聴きます。しかし、若い学会ですから、活動に不十分・未成熟さがあっても当然です。でもその批判は、学会理事会の学会成熟と活動充実への努力不足に向けられてきたようです。勿論、今までも随分理事会中心に努力はされてきました。要は、今まで以上にやれでしょう。ではどうするか。

まず、全国大会の更なる充実（テーマ別シンポジウムの複数開催を試みて中堅・シニア会員の報告参加を半ば強制する……力不足の若い会員に任せっ放しではなく模範を示せ）。第2は、学会紀要のさらなる充実と投稿論文数増加と審査体制充実（編集長頑張れ）。そして、以上のために、地域ごとで小さな研究会を開き、若手研究者を発掘し養成する。とりあえず関西・中京と関東方面で地域担当理事の人がいろいろ企画するなどして、地域研究会で新規会員を掘り起こす。そしてインターネットで広報し参加を促す。でも、活動拡大は予算拡大も生みます。本当にそうなると思います。会計担当頑張れ。後は皆さんも考えて……。

1. 2005年度総会・全国研究大会のご案内

オーストラリア学会2005年度総会・全国研究大会は6月11日(土)、12日(日)の両日、同志社大学今出川校地の寒梅館で開催されます。今大会のテーマは、Unity Divided（分割された統一）です。第1日は特別講演「Contemporary Australian Art 現代オーストラリアのアート」(Christine Judith NICHOLLS 東京大学訪問教授)、シンポジウム「Australian Culture -Surviving the 21st Century 21世紀オーストラリア文化の行方」、懇親会、2日目は個別報告、総会が行われますので、ご参集のほどお願い申し上げます。

オーストラリア学会代表理事 関根政美

2. 第6期第1回理事会報告（2004年12月12日、東京大学駒場 午後2時から開催）

- (1) 学会報発行状況（第40号、第41号、第42号）および発行予定案（第43号、第44号、第45号）
- (2) 学会誌『オーストラリア研究』第17号（2005年3月発行予定）編集進捗状況
- (3) 全国研究大会準備状況（上記1参照）
- (4) 新入会員2名承認（後掲4頁参照）
- (5) 代表理事の選出と理事の役割分担（次頁3参照）
- (6) 今後の理事会のあり方について（上記、囲み記事参照）
- (7) 事務局移転について 現在の桜美林大学福嶋輝彦研究室から杏林大学総合政策学部橋本雄太郎研究室へ3月末を目途として移転することが確認された。（新しい事務局の連絡先等については、次号会報に掲載予定）

出席者 = 関根政美（代表理事）、有満保江、安藤充、加賀爪優、加藤めぐみ、鎌田真弓、小林信一、鈴木雄雅、竹田いさみ、橋本雄太郎、福嶋輝彦、松繁寿和、南出真助（以上理事）、岡崎一浩、谷内達（以上監事）

3 . 2004 年 12 月 -2007 年 12 月役員一覧

- [代表理事] 関根政美
- [副代表理事] 鎌田真弓
- [総務担当理事] 橋本雄太郎
- [会計担当理事] 安藤 充
- [渉外・国際交流担当理事] 福嶋輝彦
- [全国研究大会担当理事] 有満保江、南出真助
- [研究企画担当理事] 加賀爪 優、竹田いさみ、松繁寿和
- [学会誌担当理事] 小林信一、加藤めぐみ、藤川隆男
- [会報担当理事] 鈴木雄雅、田澤佳昭
- [地域担当理事] 石垣健一
- [監事] 谷内 達、岡崎一浩

代表理事、副代表理事、総務担当理事、会計担当理事が運営委員として日常業務に当たる。

書 評： **藤川 隆男 著**
『オーストラリアの歴史 多文化社会の歴史の可能性を探る 世界に出会う各国=地域史』
有斐閣、2004 年 4 月刊行、本文 278 頁、CD-ROM 付き (2,415 円)

鎌 田 真 弓 (名古屋商科大学)

専門家による概説の重厚さを実感させる 1 冊である。全 20 章では各時代を象徴するテーマが取り上げられて、オーストラリアの歴史的歩みが編み上げられている。同時に、それぞれの場面に、先住民や移民、ジェンダー、市民生活、経済、政治などのテーマが織り込まれ、多文化社会を構成する様々な歴史主体の過去の世界が現代に向けて絵巻物のように展開する。コンパクトな概説書でありながら、具体的な描写やデータが十分に提供されており、読み応えも十分である。その上辞典と年表が搭載された CD-ROM が添付され、格段の情報量である。(完全な形態ではないが Macintosh OSX でも読み込み可能であった。) 移民船や金鉱での生活環境、女性の労働、恐慌時の失業者の様子など、生活の実態がイメージできる描写は歴史研究の蓄積から生まれ得るものであろうし、外部者との接触によるアボリジナル社会の変化や、経済グローバリゼーションの視点から捉えたオーストラリアのアジア・太平洋国家化など、異なる専門領域の視野からオーストラリアの歴史が語られている。オーストラリアの国民史を超えた歴史へのアプローチには、編者を中心とした 4 人の執筆者の入念な共同作業の成果が発揮されているといえよう。

歴史の概説なので全体を読み通すことが筋ではあるが、本書は各章が歴史案内への窓口のようになっていて、どの章からでも無理なく読み始め

られる。それぞれの事件が歴史的歩みの中に位置づけられており、社会史、経済史、政治史、日豪関係史など、読者の関心に沿って読み進むことができる。各章の冒頭にあるリード文は本文の要約としての役割を果たしており、見出しも多く、図表や写真も豊富で、興味深いトピックのコラムが挿入され、全体的に読みやすく工夫されている。オーストラリア研究の入門書として最適であるし、私のように教養科目としてオーストラリアを教える者にとっては、大変使い易い教科書である。

さらに、オーストラリア研究に身を置く者にとっては、本書は「入門書」ではない。「概説に始まり、概説に終わる。これが歴史家の歩む道だと思う。」藤川会員が明言するように、概説書を書くには最高度のプロフェッショナルである必要がある。本書が描く過去の世界は、膨大な蓄積量の研究や手法を再検討した結果であり、オーストラリア人が語る歴史の相対性を明らかにし、歴史の実践(あるいは濫用)への批判を含むものである。フェミニスト運動を生み出した社会状況を描きつつさらなる女性史研究の必要性を指摘した第 13 章、保守的歴史学者が語るオーストラリアの歴史を保守主義の思想的系譜の中で批判した第 17 章など、プロフェッショナルとしての最新の研究動向への鋭い視線が各章を支えている。外部者としてどのように研究対象に接近するのか、本書から学ぶところは大きい。

全国大会研究発表の募集

オーストラリア学会 2005 年度総会・全国研究大会は 6 月 11 日(土)、12 日(日)の両日、同志社大学今出川校地・寒梅館(〒602-0023 京都市上京区烏丸通上立売下ル御所八幡町 103 電話:075-251-3110(代))で開催されます。発表を希望される会員は、氏名・所属・題目を明記の上、3 月末日までに、下記にお申し込みください(200 字程度の要旨を添付してください)。なお、個別報告は 12 日(日)午前中を予定しております。

発表申し込み先

E-mail: yarimitu@mail.doshisha.ac.jp (有満)

郵送受付 〒610-0394 京田辺市多々羅都谷 1-3 同志社大学言語文化教育研究センター
有満 保江

豪日交流基金から 3 つの「2005 年度 助成金」のご案内

オーストラリア政府の文化機関である豪日交流基金(AJF)では、日本の研究者・大学院生を対象とした下記の「2005 年 助成金プログラム」の申請を現在、受け付けております。ゼミの学生またはご同僚など、多くの方々のご興味を喚起していただきますよう、よろしくご宣伝をお願い申し上げます。

詳細はホーム・ページ(<http://www.ajf.australia.or.jp/awards/sirneil/index.html>)をご覧ください。

また、ご質問などがございましたら、豪日交流基金 SNC 係までご連絡ください。

(: 03-5232-4063 / Email: ajf@dfat.gov.au)

(1) 豪日交流基金オーストラリア関連書籍出版 助成金

現代のオーストラリア社会、政治、文学、教育、IT、公共政策、環境など、あるいは豪日関係についての知識や理解を、日本においてより深めるような内容の著作が対象となります。若手の研究者からの申請を歓迎します。

(2) 豪日交流基金サー・ニール・カリー オーストラリア講座、講義、新設・充実 助成金

日本の大学や大学院において学生向けのオーストラリア講座を充実あるいは新設するためのプログラムです。現地調査、資料収集、日本の大学・大学院などでの講義を目的としたオーストラリア人講師の招聘が助成の対象となります。

(3) 豪日交流基金サー・ニール・カリー 大学院生対象 オーストラリア研究 助成金

全般的なオーストラリア研究、あるいはアジア太平洋地域におけるオーストラリアの役割に焦点をあてた研究、または比較研究が対象となります。

応募締切: (1)~(3)のいずれも 2005 年 4 月 29 日(金)まで

〒194-0294 東京都町田市常盤町 3758 桜美林大学国際学部 福嶋輝彦研究室気付
オーストラリア学会事務局 : 042-797-2661(代) / 042-797-9467 (直)
FAX: 042-797-2743 E-mail: terryf@obirin.ac.jp

(事務局は 4 月以降、杏林大学総合政策学部 橋本雄太郎研究室へ移転予定です[1 頁 2 (7)参照])

会費振込先: 00190-3-157063 加入口座名: オーストラリア学会

本会報は学会記録以外に、会員のご意見やご要望を掲載します。意見、著書、新刊、訳書、投稿など、事務局または会報担当理事までお送りください。(宛先: 鈴木、HAF00025@nifty.ne.jp / 田澤、ytazawa@dohto.ac.jp)

[編集担当: 田澤佳昭(道都大学)]